

(株)テクノ・システム・リサーチ

URL [www.t-s-r.co.jp](http://www.t-s-r.co.jp)

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSR ビル

代表取締役社長 藤田正雄

## 国内ストレージソリューション市場規模予測を発表

2010年2月、IT専門調査会社であるテクノ・システム・リサーチは、国内ストレージ市場の現状と今後について分析した調査報告書を発表しました。

- ・ 2009年国内ストレージソリューション（DiskArray, Tape, Software, Service, Switch）の市場規模は対前年比14.6%減の361,343億円
- ・ 今後市場規模の成長性に関して三つのシナリオが考えられる
- ・ 『データの価値』を主体としたストレージビジネスへ転換できかが市場拡大のポイントとなる

現在ストレージビジネスは、容量対単価の下落、パブリッククラウドの登場などによって大きな危機を迎えている。そのため、現状にプラスアルファの市場を見つけ出し、ストレージビジネスを拡大、あるいは維持させようとストレージベンダーは考えており、本調査レポートの企画段階では、どこにどれだけのデータがあるのかを把握し、業種、アプリケーションのどの分野に注力していけばよいのかということがポイントとなっていた。

そのため、今回のユーザー調査では

- ・ ストレージの要求要因
- ・ ストレージの選定要因
- ・ 容量増加率
- ・ 所有しているデータ量の中で、実際に使用していないデータ量
- ・ アクセスされなくなる時期
- ・ 古くなったデータの対処方法
- ・ 購入しているストレージ単価による傾向

といった観点のもと、業種別、アプリケーション別に分析を行った。

シニアアナリストの幕田範之は次のように述べている。

「容量を主体としたストレージビジネスモデルは限界を迎えている。調査結果からは、『増加したデータは削除する』といった声が多く挙がっていることや、ストレージを周辺製品と位置づけた事業展開を行っているSI/VARの動きが見られたこと、市場トレンド

からはミッドレンジからローエンドへの動きが顕著になってきていることなどが明らかになっている。

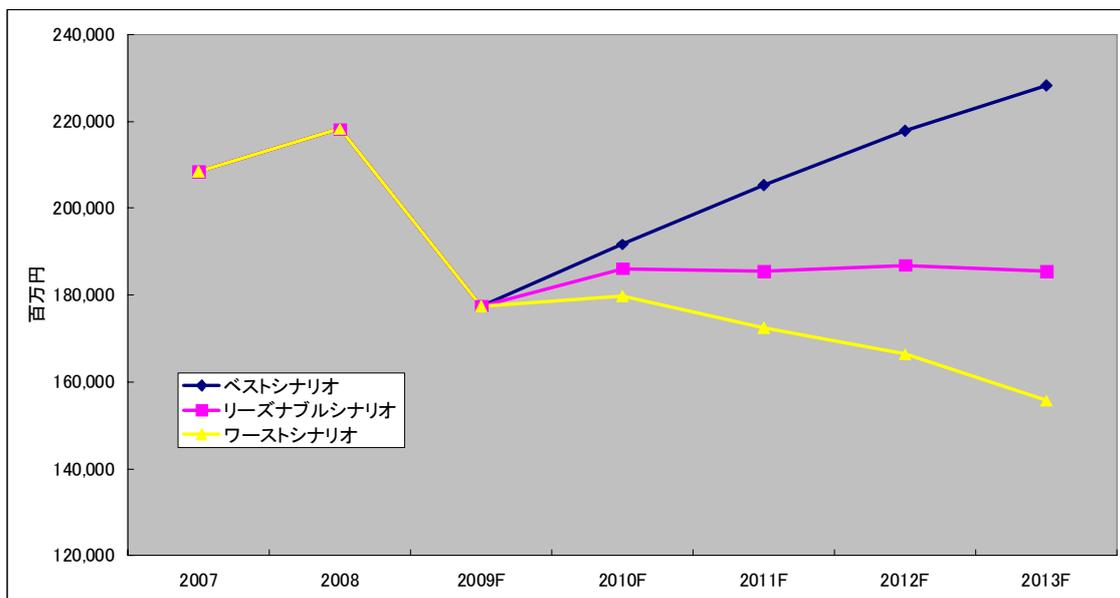
このような中において、ストレージを提供するベンダー自身がユーザーの『データの価値』を追求していくことが重要になってくる。ストレージベンダーが『データの価値』に準じた適切なストレージ購入を提案できるならば、ストレージ市場はベストシナリオをたどる可能性がある。」

今回の発表はテクノ・システム・リサーチが発刊したレポート「2009年版 ストレージソリューション市場のマーケティング分析」～データはどこにあるのか？そしてどこに行くのか？～にその詳細が報告されています。

本レポートでは、ストレージ主要エンタープライズメーカー16社・主要SIer10社・ユーザー調査479件の3方向からの視点で分析を行うと同時に、ストレージソリューション市場の2007年、2008年の出荷実績及び市場分析、2009年～2013年までの予測を行っています。また、ストレージビジネスにおけるクラウドの位置づけについても分析・予測を行っております。

#### <参考資料>

#### ストレージハードウェア市場における三つのシナリオ（2007年～2013年）



お問い合わせ先

(株)テクノ・システム・リサーチ

幕田範之

TEL : 03-3851-5651

e-mail : makuta@t-s-r.co.jp